

# 浦幌町立博物館だより

令和3(2021)年8月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎015-576-2009 / ✉urahoro.museum@gmail.com

## 浦幌は「地形の教科書」

7月、上土幌町糠平の「ひがし大雪自然館」に勤める乙幡(おっぱた)康之学芸員を講師にお招きし移動博物館講座「上浦幌の地形をめぐる」を開催しました。

乙幡さんは自然地理学が専門で、現在わたし達が目にする「景色」の重要な要素となっている「地形」に着目し、その形成過程などを研究されています。

乙幡さんによると、浦幌川流域には「十勝平野ではここでしか見られないような、教科書的な地形が揃っている興味深い場所」とのことです。

### 景色を「地形」の目でみると

戦前から景勝地として知られている活平の「三枚平」。川底の岩盤が階段状になっている渓谷で、兩岸にはカエデの木が多く、特に秋の紅葉が美しいことで知られていました。

この「階段」は、「砂岩」と「泥岩」という硬さの異なる地層が交互に積み

重なっていることが原因です。柔らかい方の地層(砂岩)が川の流れて削られて、硬い方の地層(泥岩)が残ったことによる地形です。これを「差別侵食(さべつしんしょく)」といいます。

また、朝日橋から常室にかけては、傾斜に従って南下しようとする浦幌川が、白糠丘陵の硬い岩盤にぶつかって蛇行をくりかえす地域で、長い年月の間に川が何度も流路を変えています。その痕跡が「環流旧河谷(かんりゅうきゅうかこく)」という地形として残っています。

このような、いま見える風景を「地形」の観点から眺めると、見慣れた景色もまったく違ってきます。新鮮な驚きや発見がたくさんある、とても楽しい講座となりました。

### 地形図を「読む」

今回は上浦幌～中浦幌地区を中心に、地形図を片手に現地を回る巡検としました。しかし乙幡さんによる



川流布(かわるっぷ)地区で、「川流布山」を遠望しながら、白糠丘陵の形成史について解説する乙幡学芸員。(2021年7月11日)

と、実は地形図をじっくりと読み込むことで、現地に行かなくても8割方は風景をイメージすることが出来るそうです。あとの2割は、事前のイメージが正しいかを確かめに実際に巡ります(これを「巡検」といいます)。

奥が深い、地形と地形図のお話。今回に続き、冬には室内で地形図を読む講座を、来年は別な場所での地理巡検を、それぞれ計画しています。お楽しみに。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

### 「博物館の収蔵資料から

こんな資料を集めています!

#### これは「常室郵便局?」



常豊の土本伸重さんから「かつての常豊郵便局ではないかと思うがどうか?」との問い合わせと共に寄贈いただいた写真ですが、博物館では判断がつかないでいます。皆さんからの情報をお待ちしています。これ「常室郵便局で合っていますか?」 (浦幌町立博物館所蔵)

### Pick up BOOK [注目の本]

図書館から

#### 『1964東京五輪空輸作戦』

夫馬真一(著) 2018年2月26日発行  
A5判並製カバー 318頁 原書房刊



今年紆余曲折ありながら開催された東京五輪。開会式での聖火点灯の様子をテレビでご覧になった方も多いのではないのでしょうか?

本書は、前回東京で開催された1964年五輪の聖火を、空輸でギリシャから東京へ運んだ人々の全貌が描かれています。

1964年五輪では、国内だけでなく国外でも聖火リレーが行われたのです。多くの人々がそれぞれの立場で、数々の困難を乗り越え、力を尽くした様子が綴られています。

【図書館での配架場所】  
スポーツ・体育コーナー  
分類記号→ 780.67

(浦幌町立図書館 司書 山崎菜摘)